

第1表 各薬剤のタバコナジラミパイオタイプQ(卵後期～ふ化幼虫)に対する殺虫効果(2007年)

薬剤名	系統名	希釈倍率	卵後期		ふ化幼虫		卵後期～ふ化幼虫	
			供試卵数	未ふ化率%	供試虫数	死亡率%	供試虫数	死亡率%
アドマイヤー顆粒水和剤	ネオニコチノイド	10,000	47	0	45	81	47	80
アクタラ顆粒水溶剤	ネオニコチノイド	3,000	66	5	63	61	66	59
ダントツ顆粒水溶剤	ネオニコチノイド	2,000	44	0	42	85	44	84
パダンSG水溶剤	ネライストキシン	1,500	48	0	46	38	48	35
DDVP乳剤50	有機リン	1,000	30	0	28	33	30	29
ピラニカEW	殺ダニ	2,000	62	0	60	34	62	30
ニッソラン水和剤	殺ダニ	2,000	74	0	67	22	74	22
テデオン乳剤	殺ダニ	500	87	0	80	32	87	31
チェス顆粒水溶剤	その他	5,000	57	0	53	57	57	56
プレオフロアブル	その他	2,000	38	1	34	19	38	20
モレスタン水和剤	その他	2,000	48	61	18	38	48	77
無処理	—	—	50	9	45	0	50	9

注1) 処理3日後に卵のふ化率を、8日後に幼虫の死亡率を調査。

注2) 処理区の未ふ化率と死亡率は無処理区のもので補正。補正死亡率=(無処理区生存率-処理区生存率)/無処理区生存率×10

注3) 卵後期～幼虫の死亡率は、各ステージの供試虫数が異なるために卵と幼虫の和とならない。

<参考>

第2表 これまでの試験等でタバコナジラミパイオタイプQに殺虫効果の認められた薬剤と各作物への登録状況

薬剤名	殺虫効果1)			登録状況2)						
	卵後期～ふ化幼虫	3齢幼虫3)	成虫	キュウリ	メロン	トマト	ミニトマト	ナス	ピーマン	サヤインゲン
アドマイヤー顆粒水和剤	■	×	×	◎	◎	◎	◎	◎	○	○
アフーム乳剤	●	▲	●	○	○	○	○	○	○	○
アルバリン/スタークル顆粒水溶剤	●	▲	●	◎	◎	◎	◎	◎	○	×
コロマイト水和剤	●	●	—	○	○	◎ (乳剤)	◎ (乳剤)	○	×	×
サンマイトフロアブル	●	●	●	◎	◎	◎	◎	○	◎	×
スピノエース顆粒水和剤	●	●	●	○	○	○	×	○	○	×
ダニトロンフロアブル	●	●	—	○	○	×	×	○	○	○
ダントツ水溶剤	■	×	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎	×
ハチハチ乳剤	●	▲	×	◎	×	◎	◎	◎	×	×
ベストガード水溶剤	●	■	●	◎	◎	◎	◎	◎	○	×
モスピラン水溶剤	●	×	■	◎	○	◎	◎	○	◎	○
モレスタン水和剤	■	×	—	○	○	○	×	○	○	×

注1) 殺虫効果 ●:補正死亡率90%以上, ■:補正死亡率70~90%, ▲:補正死亡率50~70%未満, ×:補正死亡率50%以下, —:試験データなし。

注2) 2008年2月現在の登録状況 ◎:登録あり, ◎(乳剤)乳剤で登録あり, ○:タバコナジラミ以外の病害虫に登録あり, ×:登録なし